

<誘導しない(答えを言わない) 言いまわし>

= 本当の気持ちを聞き出す技 =

本人の本当の気持ちを聞き出したい時に、「誘導」であったり、「答えを言ってしまう」言い回しをしていませんか？ 本当の気持ちなどを聞き出すには、逆に質問内容を遠回しにしてみるのとは一つの技です！

例え、言葉を上手く使い熟すことが苦手だとしても、言葉自体の状況判断(良し悪し)は出来ています。なので、例えば出された選択肢2つに対して、状況からどっちを選んだ方が自分が有利になるかは分かっていますよ～。

スイッチでのやり取り

例えば、①「場所や物。人への好き嫌い」などを聞き出したい
②「怪我や身体の不調」に対してピンポイントで知りたい
③「物事の認知力」などをチェックしたい
(物の名称や行動の認知) など

本人の本当の気持ちなどを引き出す為には、「考えるスキル」は絶対です！そこを重視した、あくまでも、こんな考え方とやり取りがあるという「ほんの一例」です。

- ①「対象物(人・事柄)に対して、多分本人がこうだと思われる方に対して、「逆」の事を伝えて様子を探ってみる。
<NGと思われる対応>→「行きたくないの?」や「今日はお休みにする?」、「△△さんに○○されたんでしょ?」等。行く行かないに関しては、この(上記↑)この言葉を待っています！「誘導的」問いかけは、本性ではない確立が高いです！
- ②捻挫かな?と思った時先ず、身体の各部分を触りながら名称を伝えます。「頭?膝?お腹?足首?お尻?」など、色々な部分を複数出します。ポイントは、確信の部分は真ん中あたりに入れ込むことです。
<NGと思われる対応>→「ここ痛いよね?」。そこかもしれませんが確実な部分は分からないかも。もしかしたら、捻挫より他の部分の打ち身の方が痛いのかもかもしれません。言葉や名称が分からない、痛みに鈍感な子は言われたところにならずいてしまったりする可能性もあります。
- ③「似たような物・事をランダムに伝え、認知度を探り出す」。
<NGと思われる対応>→物を探し出せない、見つけられない様な時、答え(「これ」)だったり、具体的すぎるヒントを出してはダメです

何に対しても、そもそもその言葉の意味が分かって反応しているかは大きなポイントです。 例えば、英語で話され、なんとなくの理解の場合、「yes」と言ってしまうたり、うなずいてしまいがちですよ！また、「早口」はダメです！丁寧に伝え、しっかり様子を観察しながらの対応が鍵です！

中高生に関しては、実習やその先の就労と生活に関して、どこまでの成長とスキルアップ、自立心、自立行動を求めるかによります。そこをしっかりと見定めをする事で、日々のやり取りや対応法などが大きく変わってきます。本人の性格と特性と現状を理解した上での対応なので、一人一人違ってきますが、考え方のベースとしてはこんな感じです。スイッチでは、「考える力の向上!」の為の対応をしています！

<通常活動(運動)再開!>

思い返すと「コロナ」による、生活リズムの崩れが始まり、また猛暑の夏休みで熱中症対策により、通常の運動量は制限していました。ようやく気温も下がり気持ちよく運動を行える気候になりました☆

心拍トレーニング、長距離ウォーキングの再開です(^^) / (具体的な内容は過去の「でこぼこ」参照～(^^)♪)

「運動」は、体力向上だけの効果ではありません！社会で必要な精神面にも大きな効果が見込めます☆

1日の活動で、午前中の作業だけでは体力的に不完全燃焼になってきてお腹が減らずになっています(汗・笑)。「作業+プチ山ウォーキング」が10月から必須になります。